

2023年11月27日(月)19:30～  
『レコード芸術』好評連載待望の書籍化、  
『古楽夜話』(音楽之友社)刊行記念  
“古楽”って、こんなにおもしろい！  
那須田 務  
(書籍『古楽夜話』著者)



今夏惜しまれつつ休刊となったクラシック音楽専門誌『レコード芸術』。そこから誕生したのが那須田務先生による『古楽夜話』です。現在オーケストラのコンサートなどでよく演奏されるモーツァルトやベートーヴェンより古い時代、中世・ルネサンス・バロック時代の音楽が一般的に「古楽」と言われます。古い時代の音楽というと、ヴィヴァルディの《四季》やJ.S.バッハの《G線上のアリア》などを思い浮かべる方が多いかもしれません。ところが、それにとどまらない、クラシック音楽のイメージをくつがえすようなバラエティ豊かな世界が広がっているのが古楽のおもしろさ。『古楽夜話』は、そんな古楽の作曲家を、空想シーンと解説を組み合わせ、一人一話形式でご紹介、「古楽は気になるけど、勉強のようでどうも堅苦しい」、「どれも同じように聴こえてしまう」、「歴史好きだし、古い時代の絵画などとも結び付けて音楽を聴いてみたい」——そんな古楽ビギナーにぴったりの一冊です。

今回のトークイベントでは、作曲家や楽曲の魅力、本で紹介したCDの聴きどころなど、音楽を交えながらお話しします。司会進行は『レコード芸術』誌最後の編集長・浜中充氏。那須田先生の古楽関連おすすめ書籍もご紹介、古楽を聞いたことがない方も大歓迎！！

これを機に魅力満載の「古楽」の扉を開いてみては、いかがでしょうか？

【主なトーク内容】(予定)

- ・「古楽夜話」連載はどうやって始まったか～『レコ芸』連載時のこぼれ話～
- ・そもそも、“古楽”って、どんな音楽？～中世、ルネサンス、バロック期の音楽の概略～
- ・作曲家さまざま～敬虔な宗教心、情熱的な恋、破天荒な生涯からスパイ疑惑、殺人まで！？～
- ・『古楽夜話』掲載の音楽について——聴きどころと聴きくらべ～演奏でこんなに変わる驚き～

【講師紹介】

那須田 務(ナスダ ツトム)

音楽評論家。1980年代にケルン音楽大学およびアムステルダムで古楽演奏を学び(ヘラー、ハウヴェ両氏に師事)、ケルン大学哲学部音楽学科修士課程修了(M.A.)。帰国後2023年まで母校の洗足学園音楽大学で音楽学を講じるとともに、音楽評論家として活動。ラジオ番組への出演や新聞雑誌への寄稿、市民講座などを行なう。共訳書にアーノンクール著『音楽は対話である』(アカデミア・ミュージック)、著書に『音楽ってすばらしい』(ポプラ社)、『名曲名盤バッハ』、『ON BOOKS advance もっときわめる！ 1曲1冊シリーズ⑤ J.S.バッハ:《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》』(以上音楽之友社)のほか、『古楽演奏の現在』(音楽之友社)、『古楽への招待』(立風書房)等共著書多数。また長年にわたり『レコード芸術』誌の新譜月評を担当。現在『音楽の友』誌レギュラー執筆者。日本ペンクラブ会員、ミュージック・ペンクラブ・ジャパン理事。



司会進行: 浜中充(音楽之友社出版局書籍部・『古楽夜話』担当編集、元『レコード芸術』編集長)



←左から巨匠グスタフ・レオンハルト、那須田務、浜中充。  
『レコード芸術』のためのインタビュー取材時に(2009年5月14日)

- ☆会場…4階喫茶コーナーにて。定員30名。入場料2,000円。(ドリンクなし、イベント当日受付で現金にてお支払い。)
- ☆予約…事前のご予約が必要です。1階サービスカウンターもしくは電話にてご予約承ります。
- ☆トークセッション当日の開場は、開演時間の30分前からとなっております。

ジュンク堂書店 池袋本店

TEL: 03-5956-6111